

那須塩原市立大山小学校防災教育を支援



展示説明する佐藤1曹



大田原地域事務所長の挨拶



止血法実習の様子

栃木地方協力本部大田原地域事務所（所長 高井1陸尉）は、10月24日（木）、25日（金）に行われた「那須塩原市立大山小学校防災教育」を支援した。

本教育は、6年生（約120名）が参加し、那須塩原市危機管理課及び自治体等の協力により、ダンボールベッド体験や火おこし体験、防災食（レトルト食品）の喫食体験を通じて防災への意識を高揚させる目的で行われた。今回は、大田原地域事務所として初めての小学校で行う防災教育支援として、「身近にあるものを利用した応急的な止血方法」を行い、生命を守る手段の一例として紹介した。担当広報官の佐藤1曹は、23日（水）に当校で行われた事前教育に参加し、教育内容の説明と災害派遣の写真を用いて過去の災害派遣の経験を紹介した。生徒たちは真剣なまなざしで話を聞いており、いつ起こるか分からない災害に対し早くも防災の意識が芽生えている様子であった。

当日は女性自衛官（募集課 蒔苗3空曹）も参加し、女子生徒にも安心して参加してもらうことができた。止血法では、まずは自分一人で止血に挑戦してもらい、一人で行うことの難しさを体感、その後友人と協力して止血を行う当為流れで実施した。ダンボールベッド体験と止血体験を終えると、生徒たちはグループに分かれて薪を作り、火をおこし、非常食炊飯を行った。食後に各グループに感想を聞いてみると「とてもおいしくできた」「お米が少し硬かった」などと笑顔で述べていた。最後は全員で後片付けを行い、閉会式では生徒たちが協力してくれた方々に感謝の言葉を述べ防災教育は終了した。閉会式終了後に大田原地域事務所長は近傍の大田原市内で行われる「産業文化祭広報展」の紹介を行い、「我々も参加するので、また会いましょう」と再会を誓い解散した。

大田原地域事務所は、「今後も、地域自治体や学校と密に連携し様々なイベントを積極的に参加することで、自衛隊を知ってもらい、触れてもらっていく」としている。



生徒たちの安全を見守る蒔苗3曹



喫食準備完了



使用した鍋をピカピカに